

平成21年10月14日

日本原子力発電(株)敦賀発電所1号機の定期検査中に確認された
高圧注水系ディーゼル冷却用海水配管の減肉について

原子力安全・保安院は、本日（10月14日）、日本原子力発電(株)から、定期検査中の敦賀発電所1号機（沸騰水型：定格電気出力35.7万キロワット）において、点検の結果確認された高圧注水系ディーゼル冷却用海水配管の減肉について、以下のとおり報告を受けました。

1. 日本原子力発電(株)からの報告内容

定期検査中の敦賀発電所1号機において、高圧注水系ディーゼル冷却用海水配管について、肉厚測定を実施していたところ、冷却器入口の配管の最小肉厚が2.8mmである部位が1か所確認され、技術基準に基づいて計算された必要最小肉厚（3.4mm）を下回っていることを確認した。

なお、当該部以外には、必要最小肉厚を下回っている箇所は確認されなかった。

本事象による外部への放射性物質の影響はない。

「高圧注水系」は、原子炉水位が低下した場合、原子炉内に冷却水を注入するための系統であり、この水を注入するためのポンプをディーゼル機関で駆動している。

「海水配管」は、このディーゼル機関の冷却水を冷却する冷却器を海水にて冷やすために設けられている。

2. 原子力安全・保安院の対応

本件は、実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則第19条の17に基づき報告を受けたものです。

今後、法令に基づき事業者が行う原因究明及び再発防止策について、確認していきます。

（INESによる暫定評価）

基準 1	基準 2	基準 3	評価レベル
-	-	0 -	0 -

I N E S (International Nuclear Event Scale : 国際原子力事象評価尺度) とは、原子力発電所等のトラブルについて、それが安全上どの程度のものかを表す指標。評価は3つの基準 (基準1 : 所外への影響、基準2 : 所内への影響、基準3 : 深層防護の劣化) により行われ、最も高いレベルがそのトラブルの評価レベルとなる。評価レベルは、レベル0 (安全上重要ではない事象) からレベル7 (深刻な事故) まであり、原子力発電所では、レベル0のトラブルを「レベル0 - (安全に影響を与えない事象) 」と「レベル0 + (安全に影響を与え得る事象) 」に分類している。

(本発表資料のお問い合わせ先)

原子力安全・保安院 原子力事故故障対策室

担当者 : 田村、天野

電 話 : 0 3 - 3 5 0 1 - 1 5 1 1 (内線 4 9 1 1)

0 3 - 3 5 0 1 - 1 6 3 7 (直通)

高圧注水系ディーゼル冷却用海水配管系統概要

